

ながさきファミリープログラム活動例

テーマ	思春期の心と体の発達について、上手な関わり方について
活動時間	45 分
対象者	児童とその保護者
内容	ファシリテーター自己紹介後、児童は別室へ移動し、アイスブレイクからワークまで、保護者とは別内容を実施する。 アイスブレイク 保護者「みそ汁の具」 児童「数かぞえ」 ワーク（話し合い、共有） 保護者 ワーク1「子どもにありがとう伝えたいとき」について話し合う。 ワーク2 ワーク1で出た意見を達成するために、「親としてできること、こどもにさせたいこと」を話し合い、共有する。 児童 「お家の人にありがとう伝えたいとき、ありがとうと言いたいこと」について話し合う。 振り返り 保護者と児童、合同で行う 保護者と児童のワークの様子をファシリテーターが発表し、保護者と児童で共有する。 ファシリテーターによる声掛けを行う。
ファシリテーターの感想	- 話し合いが進むにつれて、子どもに求めるばかりではなく、親としてできることを努力していこうと、保護者の意識が変わっていく様子が感じられた。 - 児童と保護者が思っていることを共有したことで、よりよい親子のコミュニケーションへのきっかけづくりになったのではないかな。 - 授業参観に合わせて実施したため、保護者の出入りがあったが、サブファシリテーターの声かけや誘導で混乱はなかった。